

熱帯の有用材 (9)

緒 方 健

アグバ (Agba)

学名: *Gossweilerodendron balsamiferum* (Verm.) Harms (マメ科)
(Syn: *Pterygopodium balsamiferum* Verm.)

アグバはマメ科カワラケツメイ亜科 (Caesalpinioideae) の樹木で、ナイジェリアからカメルーン、ガボン、コンゴ、ザイール、アンゴラにいたる西アフリカの低地熱帯降雨林に分布する。アグバというのはナイジェリア名であるがこのほかに市場でよく用いられる一般名としてはコンゴのトラ (Tola), アンゴラのトラブランカ (Tola Branca) またはホワイトトラ (White Tola) がある。このトラブランカ (白いトラ) はトラルージュ (Tola Rouge, 赤いトラ) に対するもので、後者は同じくマメ科の有用樹種チトラ (Tchitola: *Oxystigma oxyphyllum* J. Leonard) の別名である。すなわちアグバにくらべチトラの材はより褐色が濃いため、このように呼ばれる。またアグバには Pink Mahogany, Portuguese Mahogany, Nigerian Cedar, Goldkiefer などの名が使われることがあるが、いずれもあとで勝手につけられた名で、センダン科のマホガニーでもまた針葉樹 (Cedar, Kiefer) でもないからこれらの名称は適当でない。地域的には Moboron, Mbolo, Mbogou, Emolo, Emola (ナイジェリア, ガボン), Avulu, Boana, Bokuku, Bolimba, Ntola, Ntubu, Mupaka, Wamba (コンゴ, ザイール) など部族によってさまざまな呼び方がなされる。なお, *Gossweilerodendron* 属は1属1種で、本種だけからなる。長い属名はアンゴラの植物の権威 J. Gossweiler に因む (-dendron は「樹木」の意味)。

樹木の形状: アグバは熱帯西アフリカでも最も大きい樹木のひとつで、高さ 50~80 (~70) m, 直径 1~1.8 (~2.5) m になり、25~30 (~40) m の枝下高がある。樹幹は通直、円筒形で、板根や根張りがなく、それだけ木材としての利用部分が多い。樹皮は緑灰色~褐色で、縦に細かく割れる。樹皮や材を傷つけると粘質の、やや芳香のある緑褐色~桃褐色の樹脂が出る。葉は5~9の小葉をもつ奇数羽状複葉。小葉は長さ 3~13 cm, 幅 2~5 cm, 楕円形~倒卵形で全縁。花序は穂状のものが集まって円錐花序となり、花は白色で、小さい。花弁を欠き、萼片 4 (~5), 雄ずい (8~9~) 10。果実は扁平な翼果で、カエテ類のように片側に翼が長く伸びる。常緑樹林から半常緑樹林にかけて生育し、湿潤、肥沃な土壤に多くみられる。天然更新は良好であるが、人工植栽は庇陰を必要とするといわれ、あまり行われていないようであ

る。

木材の性質：辺材はやや赤味を帯びた白色～灰色でしだいに黄褐色～橙褐色～淡赤褐色の心材に移行し、辺材と心材の境はあまり明瞭ではない。一般に辺材幅は広く、8～12 cmある。新鮮な材は樹脂の臭いがあり、またやや胡椒に似た臭いがあるという報告もある。乾いた材で

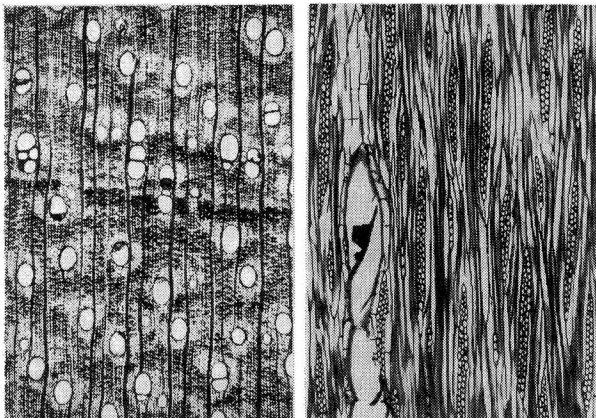


写真-1 木口面 (16×)

写真-2 板目面 (40×)

もいくらか針葉樹様の臭いがある。肌目の精粗は中庸～やや粗、木理は多少とも交錯し、縦断面ではしばしばボン李が現れる。気乾比重は0.43～0.50～0.63。

顕微鏡的な特徴をあげると、孤立管孔（道管）の接線方向の最大径は150～180 μm 、分布数は3～7/mm²。放射組織は1～3、4列、最大高は600～900 μm 。軸方向柔組織はよく発達し、道管を翼状に囲みさらに全体に多数散在する（写真-1）。繊維長は0.9～1.6～2.1 mm。垂直樹脂道をもつのがこの属の著しい特徴で、これは前回のファロのところでも述べたようにフタバガキ科のほかにはマメ科の一部の属などごく限られた樹種だけがもつので、識別に際しての良い特徴となる。樹脂道は接線方向の径50～70 μm で、木口では全体に散在し、道管より径が小さく（写真-1）、周囲をエピセリウム細胞で囲まれているので顕微鏡で区別が容易である。

木材の加工的性質としては、製材は鋸の刃に樹脂がつくがそれほど困難ではない。乾燥性は良く、大きな割れ、狂いなくかなり早く乾燥する。ただ人工乾燥時にあまり温度を上げると樹脂が表面に出てくることがある。乾燥後の寸法変化は少ない。比較的軟かな材なので切削も容易で、鋭利な刃物を用いれば良い仕上がりが得られる。接着も問題がない。耐久性に関しては、辺材はヒラタキクイの害を受けやすいが、心材は菌、昆虫にかなりの抵抗性があるとされている。

用途には家具、建築造作材、フローリング（軽量）、合板などがあげられる。アグバは一見マホガニーの類を思わせるところがあり、事実ヨーロッパでは輸入された当初マホガニーで通ったという。上記のマホガニーまがいの名称もこれに由来する。マホガニーよりやや色が淡く、比重も小さいが、材質的にも十分マホガニーの代用として通じるであろう。樹脂は現地でたいまつに用いられる程度で、大した用途はない。